

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念・職員・北アルプスの風行動指針を元に、事業所でも共有している。「必要とされる職員になる」「誰かのために一歩踏み出せる職員となる」「笑顔と感動を与えられる職員となる」	理念の実践に向け、今年度から実施している利用者様の『思い出プロジェクト』で、思い出や望みをお聞きして日常生活に落とし込み、実践しています。企業姿勢や職員行動指針、理事長講話などで、職員の感想や振り返りの中で気づきと実践力を磨き、初めに利用者ありきに立ち返っています。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流の機会はありませんが、散歩などの際に近所の方の庭のお花を見せて頂いたり、声をかけて頂いたり、犬の散歩の方が触らせて下さったりといった関わりは持っています。	コロナの影響で、以前出来ていた保育園・小学校との交流など、これから働きかけていきたいとの事です。身近なご近所の方と、散歩時のふれあいをしています。地域の和太鼓演奏の皆さんが来て下さった他、高校・中学生向けイベント・職業フェスで、管理者が介護の仕事を紹介しました。法人の方針で、認知症サポーター養成も考えていると伺いました。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に活かせる機会が持っていない。今年度は、地域の高校生・中学生向けの仕事説明会への参加の希望は出しており、少しでも活かせる機会をと思っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	管理者が、施設のある安曇野市で仕事をするのが初めてであるので、運営推進会議で地域のことや、利用者との外出先のアドバイス等を貰い、活かしている。	運営推進会議は2か月毎に開催されており、地域の事を知る情報を、市の担当者、委員の皆さんから教えて頂き、足湯や、アイスの美味しい牧場、おやきやお饅頭の店などのお出掛け先を聞いています。運営体制の報告や、質問などに答えて、状況を共有しています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者との連携は意識的に実施している。	管理者が松本市から通うため、積極的に安曇野市の担当者ともやり取りできています。また、管理者が能登半島地震のボランティアに1週間行ってきた時は、社協や市の担当者に学んできた事、実践してきたことを伝えて役立ててもらっています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を行っており、理解はできているように思うが、「スピーチロック」には特に注視して、定期的に振り返りを実施している。	身体拘束廃止委員会があり、研修は年に2回実施していますが、今後は4回にする予定です。高齢者虐待防止・プライバシー保護、認知症の理解など、年間計画で実施し記録で確認しました。特にスピーチロックに注視しています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を実施したり、日頃の中で気になる言動を出し合うなど、虐待の種となるものを摘むようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	このことに関しての研修や学びの機会は持っていないため、知識面で課題があるように感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ただ契約書を読むのではなく、なるべく、わかりやすい説明を意識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族からの意見を頂いた時には、運営に反映させ報告している。意見箱のような物がないため、直接伝えにくいこともあるかと思うので、検討していきたい。	ご家族様から色々な事、好きなものなどをお聞きして、『利用者思い出プロジェクト』に反映しています。SNSに取り組み、日々の様子は動画でご覧いただいて、ご家族から安心できると好評です。家族代表が運営推進委員会のメンバーになっており、意見箱の設置がないとの事ですが、面会時にご意見を頂いたときは運営に反映させ、結果をご報告しています。写真をたくさん入れたお便りも毎月発送しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案を受け、反映すべきことであれば、もちろん反映している。	所属するユニットの枠に捉われずに、組織人として自覚・行動して、和を大切にする職場の協力体制が、管理者・職員の方から伺えました。人事考課制度により、ユニット会議での意見や提案などと、年2回の面談時などに話して反映できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	よほどイレギュラーなことがなければ職員に残業はなく、有休の取得も確保できている。法人として、スキルアップの制度や機会も作っている。法人内でのサークル活動やお楽しみイベントも実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は、事業所職員の力量や課題に合わせて、わかりやすく、明日から活かせるような内容を意識して実施している。やりがいを持って、成長できるような"しかけ"を意識している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の同業者との交流は持っていないが、法人内での交流の機会は持っている。「人事交流」で、短期間ではあるが、職員が法人内の他の施設事業所へ交流に行ける制度もある。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	身体介護をする介護の仕事において、信頼関係は重要と捉えている。「この人になら」「この人がいるから安心」と思ってもらえるような関係になれるよう努力している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族には、「介護してもらっているから」と遠慮せず、要望等を言えるような関係作りを意識している。施設へ入れたことに罪悪感を持たないよう、入居後も連絡を取り合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用は難しいが、必要としていることには応えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自宅で奪われていたこと、できなくなっていたことを、自分達と共にやることで再獲得できるような支援を意識している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設入居後も、家族との繋がりを感ずることができるよう、家族にも支援者の一人であることをお話している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会には家族のみといった制限はなく、友人が面会にくるなど可能な限り継続できるようにしている。思い出の場所への外出などを実施しており、大切にしてきたことなどの情報収集も大切にしている。	入所前のアセスメントでしっかりと話をお聞きします。また、日常のふれあいから、懐かしい思い出がある場所、思い出のおやき、買い物など、ご利用者様の願いを個別のイベントにして外出するなど工夫を凝らしています。SNSでその様子や日常の様子も配信して、ご家族に観て頂いて喜ばれています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が会話や関わりを楽しめるよう、職員が間に入って橋渡しをしたりするよう意識している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用を終了してからも、必要時には連絡を取り支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中で情報収集を行い、今までの生活と今の生活のギャップの把握に努めている。会話のできない方もいるが、表情や仕草から推察して、代弁者となれるよう努めている。	思い出プロジェクトは、回想法と同様に効果的だと思います。家で出来ていた家事などを出来るだけ機会を見つけて、様子を見ながら、食器拭き、洗濯物たたみ、お饅頭づくりなど手伝って頂いています。お風呂での会話など1対1の場面で、起床時間など、グループホームでの過ごし方に気兼ねや遠慮されていないかを、言葉や表情、しぐさなどから読み取りできるように留意しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、家族やケアマネ等からの情報収集を大切にしている。入居後も継続できる習慣等があれば大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	支援が必要なことなく、できることの方を意識した情報収集を意識して実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	在宅からの習慣を継続したり、自宅ではできていなかったことも、入居後は職員と共にならべできることを意識して計画している。「居場所」と「出番」を意識した計画を思っている。	ADL(日常生活動作)の保持、在宅時の習慣など、日常の様子から短期目標・長期目標として落とし込む取り組みをされています。新しい方には居場所として、職員やお仲間として信頼関係を築いて、また、自分が出来る事で『役割や出番』が出来るように意識した介護計画を立てています。共有スペースで寛がれる、皆さんの穏やかな表情や言葉、雰囲気それが覗えました。	短期目標・長期目標の記述が、行動目標として特定できる記述にされることを期待します。誰が見ても内容がより明確になり、モニタリングの見直し時に反映しやすくなります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有は意識して実施しているが、記録に落としての共有には課題があると感じている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの想いに応えることができるような企画「利用者思い出プロジェクト」を今年度から実施している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との連携や協働には課題があると考えている。			

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医とは連携を取りながら支援できている。必要時には、家族と主治医が話をする機会も持っている。	事業所の主治医の受診が月2回、訪問看護が週1回あります。ご利用者様の希望など丁寧に対応しており、皆様が主治医の診察になっています。主治医と家族で話ができる機会もあり、現在、かかりつけ医受診は整形外科、眼科、皮膚科、日赤病院で、情報提供が出来るように職員が付き添うか、希望でご家族が付き添う時もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週1で来ており、職員も協働できている。電話での報告や相談もできており、不安を感じることなく支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携を取りながら、退院時の環境設定等にも活かしている。家族も退院時に戻ることができるのかを不安に感じると思うので、病院との連携を取り、ご家族にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	先を見据えて、早めに家族との話し合いを行い、共通認識を持てるように意識している。	昨年はお看取りが一人おり、ご家族と主治医と事業所・担当職員が早めに話し合い、方針を共通認識にしながらチームでお見送りさせて頂きました。SNSやお便りで使用した写真が沢山あり、遺影も選ぶことが出来ました。後は入院され、退所された方がお二人ですが、入院後も連携を取って相談に乗っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や勉強会を行っている。法人内の看護師からの研修の機会も持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	訓練や勉強会は実施できている。管理者が能登半島地震のボランティアに行ったため、そこで得た学びも共有している。	ハザードマップ上は該当の区域には含まれず、年2回の消防署の立会いで訓練を実施しています。BCP(事業継続計画)は作成済みで、書類を確認いたしました。昨年、自家発電機を設置し、防寒対策、水や食料の備蓄も出ています。管理者が能登半島地震のボランティアをして、気が付いたこと、着替えストックや直火のストーブ等、自衛隊・消防団や近所への情報発信も必要になると学んで来られました。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修の実施や、日頃から気になる言動がないかの把握を実施している。	法人での職業倫理・接遇・介護サービスの研修、虐待防止・プライバシー保護の研修など、年間計画で研修が実施されて、レポート提出もしています。利用者様の気持ちになって、待つ・見守るなど、声掛けのタイミングも工夫しています。法人全体の課題の把握にも注視していると管理者より伺いました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員主導にならないよう、振り返りや研修の機会を持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員主導や施設のスケジュールに合わせるのではなく、その方その方のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族の協力を得ながら、その方が以前から着ていたものを持参し、自分らしくおしゃれを楽しめるよう支援している。必要があったり要望があれば、好みの物を買に行ったりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや片付けを、楽しみながら行えるよう支援している。	料理は法人内のセントラルキッチンで作られ、献立表に従って冷凍で配達されてきます。季節の食材が、嚥下しやすく調理されています。日曜日の昼食は希望メニューを作ります。たこ焼き、お寿司、節句・行事食や母の日メニューなども提供します。お誕生日会のケーキ、中庭で夏野菜のプランター栽培、梅の季節には梅漬け作り、焼きいもなど季節感を大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	会話などを楽しみながら、自然と摂取量を確保できるよう意識している。好みの物を提供するなど、家族の協力も得ながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは実施している。必要があれば歯科医師の往診も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	その方のパターンの把握に努め、対応している。	ご利用者様の排泄パターンを把握し、言葉掛けなどプライバシーの保護に留意しています。献立で野菜や海藻、サラダなど繊維質のものに配慮しています。牛乳、お茶・汁物など水分摂取量を記録し、両ユニットの中を周遊でき、中庭にも出れるように計らっています。天気の良い日はご近所の散歩など、トイレで排泄できる様に自立支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	看護師とも相談しながら、対応している。水分摂取や体を動かすことも取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴の声掛けは行いが、拒否があったり「今日はやめたい」という声があれば、合わせながら対応している。	浴室が隣り合わせで2つあり、湯船を跨げる人用と、スライドチェア付きで入浴できる様に、ご利用者様の状態に合わせています。午後から午前に時間を変えたり、入浴の順番を変えたり、その日の気持ちに合わせて対応しています。入浴中は担当者が、ご利用者様が寛いで話ができるように気を配っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の気持ちを大切にしながら、休息の機会を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と相談しながら、対応している。内服の継続が必要かどうかも含めて検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	元々の生活や生きがい、嗜好等の情報収集を意識して実施している。役割や出番も意識して提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の中では、散歩や日光浴を提供している。思い出の場所等があり、希望を叶える支援も始めている。	桜やアヤマのお花見、温泉の足湯、牧場のアイス、近所の神社への散歩、ご近所のお庭のお花を見に行く、犬の散歩をしている方とのふれあいなどで、お出掛けを楽しみました。日常的な外出はもっと増えるようにしたいとの事です。今年度から『思い出プロジェクト』実施で、お一人お一人の思い出の場所に行ったり、希望の洋服の買い物をするなど、これから充実させるイベントのことも伺いました。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	今は、ご自分で管理されている方はいないが、欲しい物や必要物品は買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があった時や、家族からお菓子や花などが届いた際には、電話でお礼を伝えるなど、話ができる機会を提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	物的環境を整え、不快がないよう配慮している。職員の声など人的環境にも配慮するよう伝えている。	共有スペースは、ご利用者様が過ごしたいように利用できていて、とても和やかな雰囲気になっています。季節の行事、イベントのケーキやお饅頭づくりなど皆で協力したり、TV視聴、レクリエーションで歌やゲームなど楽しいと感じて頂ける時間を提供しています。軽い体操や、食事前の、顔の筋肉を動かす体操など、職員も自ら楽しく関わる為の工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共に過ごす時、一人の時間を過ごす時など、その日その時の様子に合わせて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持参して頂き、安心して過ごせるよう支援している。	居室は全室が窓に面していて明るく、造り付けのクローゼットが大きく、衣類や寝具、介護用品もスッキリ収納できていました。家で使用していた家具などを持ち込まなくても、整理が行き届いています。サイドテーブルに、ご家族から送られたお誕生日のプリザーブドフラワーのブーケや、家族写真などが飾られて、ご家族との絆も感じられる居室になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員主体ではなく、一人ひとりに合わせて対応している。強制することなく、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		